

## いよいよ接種開始「レプリコンワクチン」…医師が本音で語った「期待と懸念」

2024/9/30 現代ビジネス

### 新コロナワクチン「レプリコン」に期待と懸念



「重症化リスクのある人の多くがこのワクチンを接種すれば、新型コロナウイルスは、普通の風邪の原因である既存コロナウイルスと同じく、軽い疾患に変わります」

浜松医療センターの医師・矢野邦夫氏が語る「このワクチン」とは、アメリカの Arcturus Therapeutics 社が開発し、日本の Meiji Seika ファルマ社が製造・販売するレプリコンのことだ。

10月1日から始まる定期接種で使われる、オミクロン株に対応した5製品では唯一、新たに認可されたワクチンとなる。

「レプリコンとは自己増殖という意味です。mRNA というワクチン成分が体内で自己複製するため、少量の接種で強力な免疫反応を引き起こせる。ファイザーやモデルナより効果が長持ちすると想定されています」(同前)

### 遺伝子に影響を及ぼすという不安から反対声明も

だが一方で、ワクチン成分が体内の遺伝子に影響を与えるのではないかという懸念などから、日本看護倫理学会が接種に反対する声明を出すなど、反発する声もある。

昭和大学名誉教授の二木芳人氏が語る。

「新しいタイプのワクチンなので、長期的な副作用の有無は、時間を置かなければわかりません。開発国のアメリカを含め、認可した国は日本のみです。安全性のデータが多少不足するなか、世界に先んじた承認に不安を感じる方もいるでしょう」

定期接種の対象は、高齢者と、60~64歳の重症化リスクが高い人だ。それ以外の人は、最大7000円の自己負担となる。接種するかどうか、慎重に見極めて選択したい。

「週刊現代」2024年10月5・12日合併号より

### 製薬会社現役社員が「本音は売りたいくない」と内部告発…日本でしか承認されていない新型コロナ「レプリコンワクチン」の恐ろしさ 2024.09.29 現代ビジネス

10月1日から、65歳以上の人と60歳から64歳までの重症化リスクの高い人を対象に、新型コロナワクチンの定期接種が開始される予定だ。しかし、諸外国に先駆けて、日本で新たに使用される次世代型 mRNA ワクチン(レプリコンワクチン)の安全性をめぐる、専門家から懸念の声もある。

レプリコンワクチンの製造・販売元である製薬会社 Meiji Seika ファルマ現役社員のグループが「安全性を確認できていない新型コロナワクチンを強引に販売すべきでない」として、書籍『私たちは売りたいくない!』(方丈社、9月18日発売)を緊急出版。発売数日で増刷を重ね、話題となっている。定期接種開始が直前に迫る中、あらためて従来の mRNA ワクチンと次世代型のレプリコンワクチンの正体を探る。

### 日本しか承認していないレプリコンワクチン

今回の定期接種で使用されるワクチンは、Meiji Seika ファルマの次世代型 mRNA ワクチン（レプリコンワクチン、開発したのはアメリカのバイオ製薬会社・アークトウルス）、米ファイザー、米モデルナ、第一三共の mRNA ワクチン、武田薬品工業の組み替えタンパクワクチンの 5 製品。

厚生労働省によると、今回の定期接種の費用は全額自己負担額の場合、1 回 1 万 5300 円。このうち国が各自治体に 8300 円を助成し、残る 7000 円は自治体と接種を受ける人がそれぞれ負担することになるため、各自治体によって自己負担額は異なる。東京都の場合、接種者の自己負担を 2500 円以下にする方針だ。

従来の mRNA ワクチンと、新しく承認されたレプリコンワクチンを比較して、具体的に何が違うのだろうか。「総合医療クリニック徳」院長の高橋徳氏が解説する。

「これまで日本で接種されてきたのは、米ファイザーと米モデルナの mRNA ワクチンですが、mRNA とはタンパク質を生成するための情報を運ぶ遺伝情報のこと。新型コロナウイルスのスパイクタンパク（ウイルス表面の突起部分）をつくる指示を伝える役割があります。

接種により、mRNA が注射部位近くの細胞に取り込まれ、細胞内のリボソームという器官が遺伝情報を読み込み、スパイクタンパクをつくります。体内で合成されたスパイクタンパクは抗原として働き、白血球の一種である免疫細胞マクロファージと接触すると、このスパイクタンパクに対する抗体が生成され、新型コロナウイルスに対する免疫を獲得できると考えられています。

一方のレプリコンワクチンは、従来の mRNA ワクチンとの大きな違いとして、mRNA が体内で自動的に自己増殖することがプログラムされており、大量のスパイクタンパクが合成され、より多くの抗体産生が期待できるとされています。従来型の mRNA より少量の成分で効果が長続きする特徴が謳い文句です」（以下「」は高橋氏）

### 大量のスパイクタンパクが体内に残る

ところが、レプリコンワクチンの問題点として、高橋氏は「大量につくられるスパイクタンパクこそが健康被害につながる危険性がある」と指摘する。

「mRNA に反応し体内で合成されるスパイクタンパク自体が、血管障害や血栓症を誘発し、結果的に心筋炎や全身性の炎症、臓器不全などを発症するリスクが高まることが、多くの論文からわかっています。

厚労省の『mRNA は接種後数日以内に分解され、つくられるスパイクタンパクも接種後 2 週間でなくなる』という説明に反して、接種者の血中から 4 カ月以上経過してもスパイクタンパクが存在していたことが確認された論文も発表されています。

従来の mRNA ワクチンも危険なのですが、それ以上に大量のスパイクタンパクが体内に残ることになれば、予測できないほど大勢の人に健康被害が発生する懸念が大きいのです」

### 報道されない過去最大の「薬害」

厚労省は依然として、新型コロナウイルスの有効性や安全性が十分に確認されているとのスタンスを変えていない。

マスメディアではほぼ報道されていないため、あまり知られていないが、厚労省も実質コロナワクチンによる薬害を認めている。

厚生労働省「新型コロナワクチン予防接種健康被害救済制度」によると、コロナワクチン接種による健康被害が認定された件数は 8153 件。そのうち死亡認定件数は 835 件（9 月 18

日現在)。

この認定件数と死亡認定数は、現行の救済制度が開始された1977年2月から2021年12月までに新型コロナウイルスワクチン以外の全ワクチンの被害認定件数3680件、死亡認定数158件と比べても、今から約3年前の時点で優に超えている。

即接種中止を求める声には耳を貸さず、その気配はないどころか、新たな mRNA ワクチンの定期接種が始めようとしているのは異常事態といっても過言ではないだろう。